

# 第8期男女共同参画学協会連絡会

「学会を含むリーダーシップ活動における機会均等」

ワーキンググループ資料

2010年10月

# 「学会を含むリーダーシップ活動における機会均等」

## 趣旨

学会活動の眼に見える場面での女性研究者の活動状況について実態調査(属性調査)を行って数値化し、学会間で比較調査する。さらに「リーダーシップ」という観点から、女性リーダーを育てvisibleにするための方策を考える。

## 活動目的

### 1. 学会活動における実態を把握する

- \*学会発表、委員会活動の場における属性調査
- \*経年的な調査
- \*学会間の比較調査からvisibility高低の要因を探る

### 2. 女性研究者をvisibleにする方策を考察し提言する

## ワーキンググループメンバー

日本分子生物学会、日本植物生理学会、日本遺伝学会、等

## 属性調査の背景

一般演題発表者に比べてシンポジウム・WSの発表者、オーガナイザーの女性比率は低い



分子生物学会の発案による属性調査の開始  
(2009年)

## 属性調査の意義

- 学会におけるリーダーシップ活動において、見えないバイアスやバリアはあるのか、実際のデータから検証する
- 学会発表におけるシンポジウムの主催者や座長など、リーダーシップ的な役割における、女性比率を調査する
- さらに属性調査によりその詳細を調べ、女性比率を左右する要因を探る

# 日本分子生物学会年会における発表者の属性統計

～年会における女性のactivity向上を目指して～

**”学会のシンポジウムでの発表者やオーガナイザーの女性の比率は  
学会員全体における比率と比べて低いのではないだろうか？”**

日本分子生物学会男女共同参画委員会はこのような疑問をもち、2009年度から年会発表者の演題カテゴリーごとの属性調査を行っています。今年度は日本生化学会との合同大会（BMB2010）における結果をまとめ、比較しました。

## 調査方法

- 1) 日本語でのオンライン演題登録時の記載事項の一部として、性別、職階、年齢層（5歳きざみ）、所属学会（一般演題のみ）を選択式の項目として設けた。
- 2) 所属学会以外の調査項目は未選択でも演題登録可能とした。

## 演題登録者数

一般演題（日本語）：5062名（生化学会33.4%、分子生物学会58.5%、両学会8.1%）  
ワークショップ（WS）、シンポジウム：616名（WS 503名、シンポジウム 113名）

## 回答率

一般演題 : 96.4%  
WS : 89.0%  
シンポジウム : 93.8%

## BMB2010開催概要

会 場：神戸ポートアイランド  
会 期：2010年12月7日-10日  
演題登録期間：2010年7月1日-26日

## 会員の男女比（2010年8月31日現在）

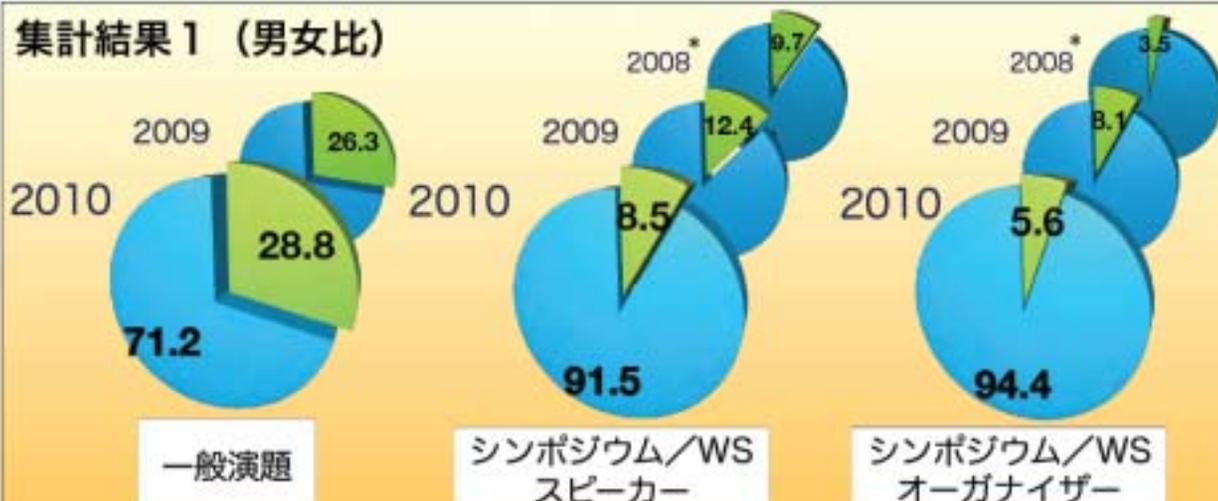
\*昨年度から変化無し



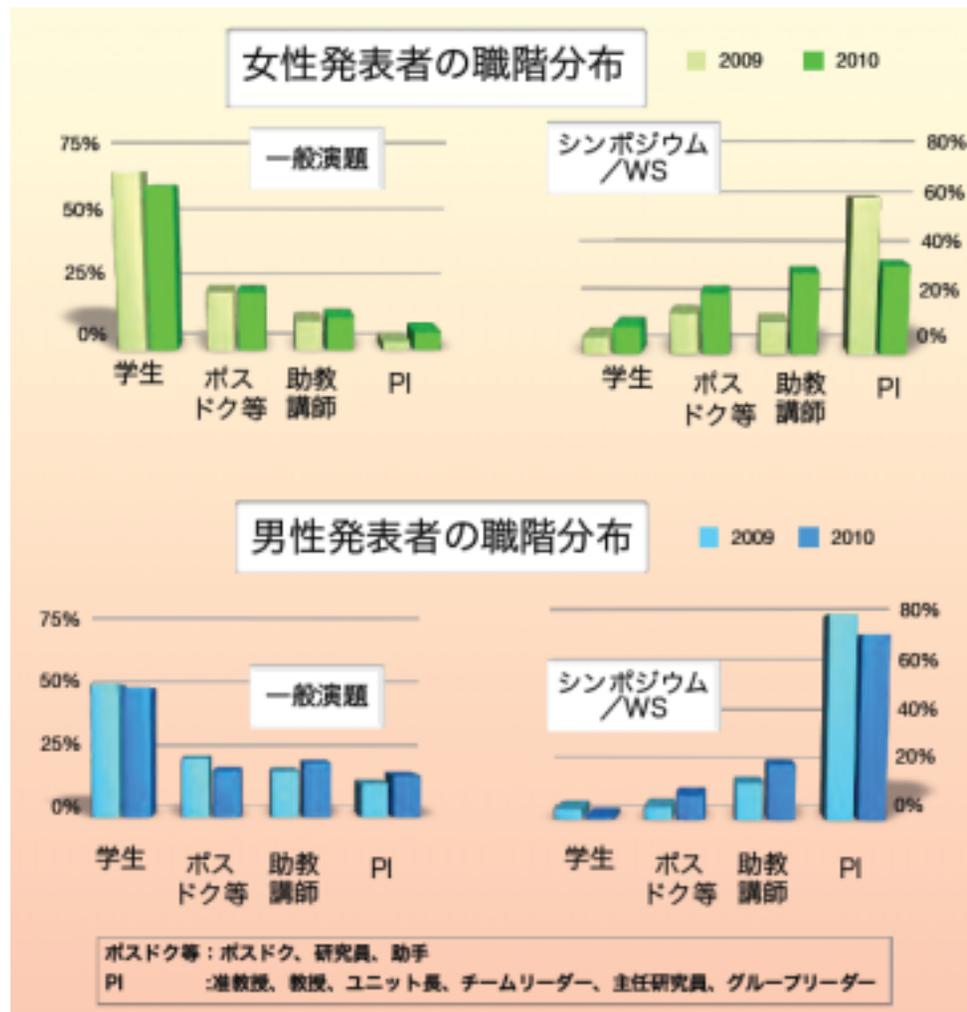
● 女性 ● 男性

\*2008年の集計結果はシンポジウムのみ (WSを含まない)

## 集計結果1 (男女比)



# 分子生物学会における演題発表者の職階分布



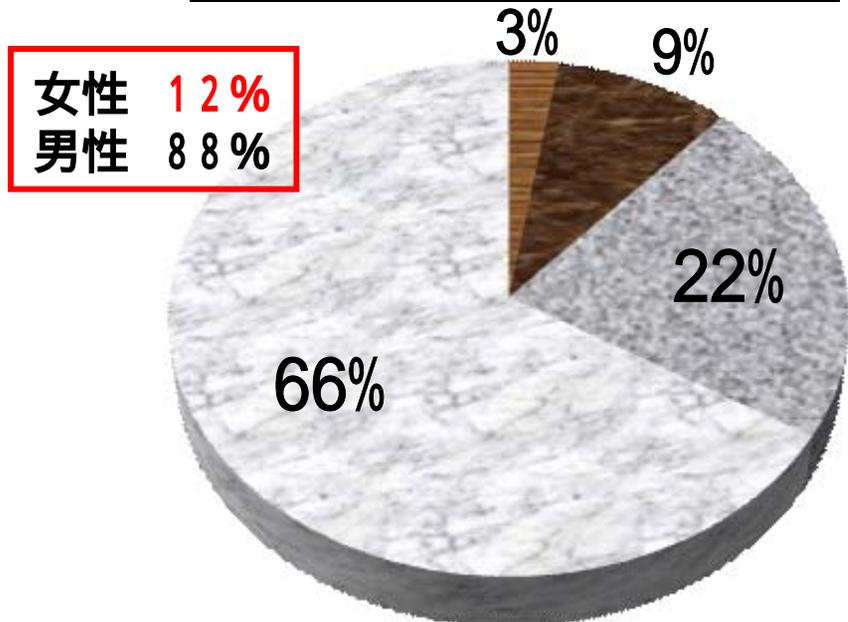
シンポジウム/WS 発表者における女性PIの割合は低い

# ご協力いただいた学協会

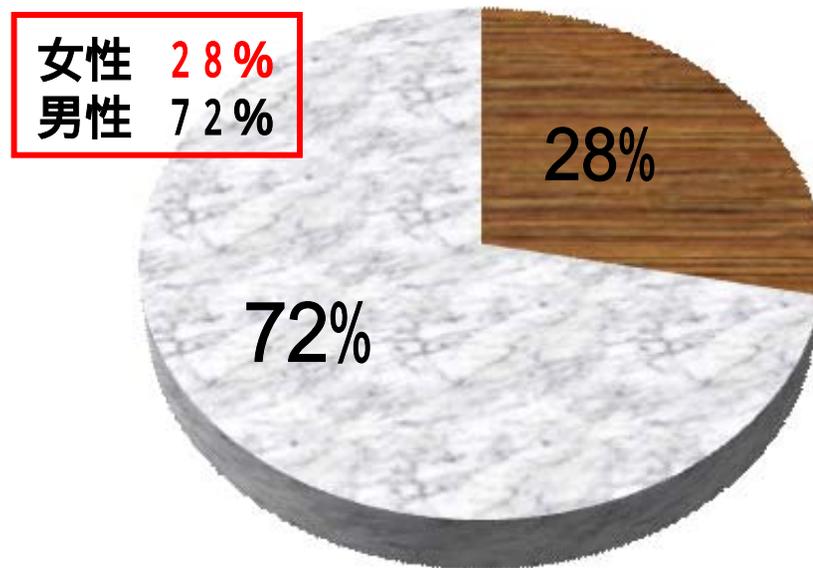
- 日本遺伝学会
- 園芸学会
- 日本神経科学会
- 日本植物学会
- 日本植物生理学会
- 日本発生生物学会
- 日本分子生物学会

# 学会でのリーダーシップ活動における女性比率

## シンポジウム/WS オーガナイザー 発表者



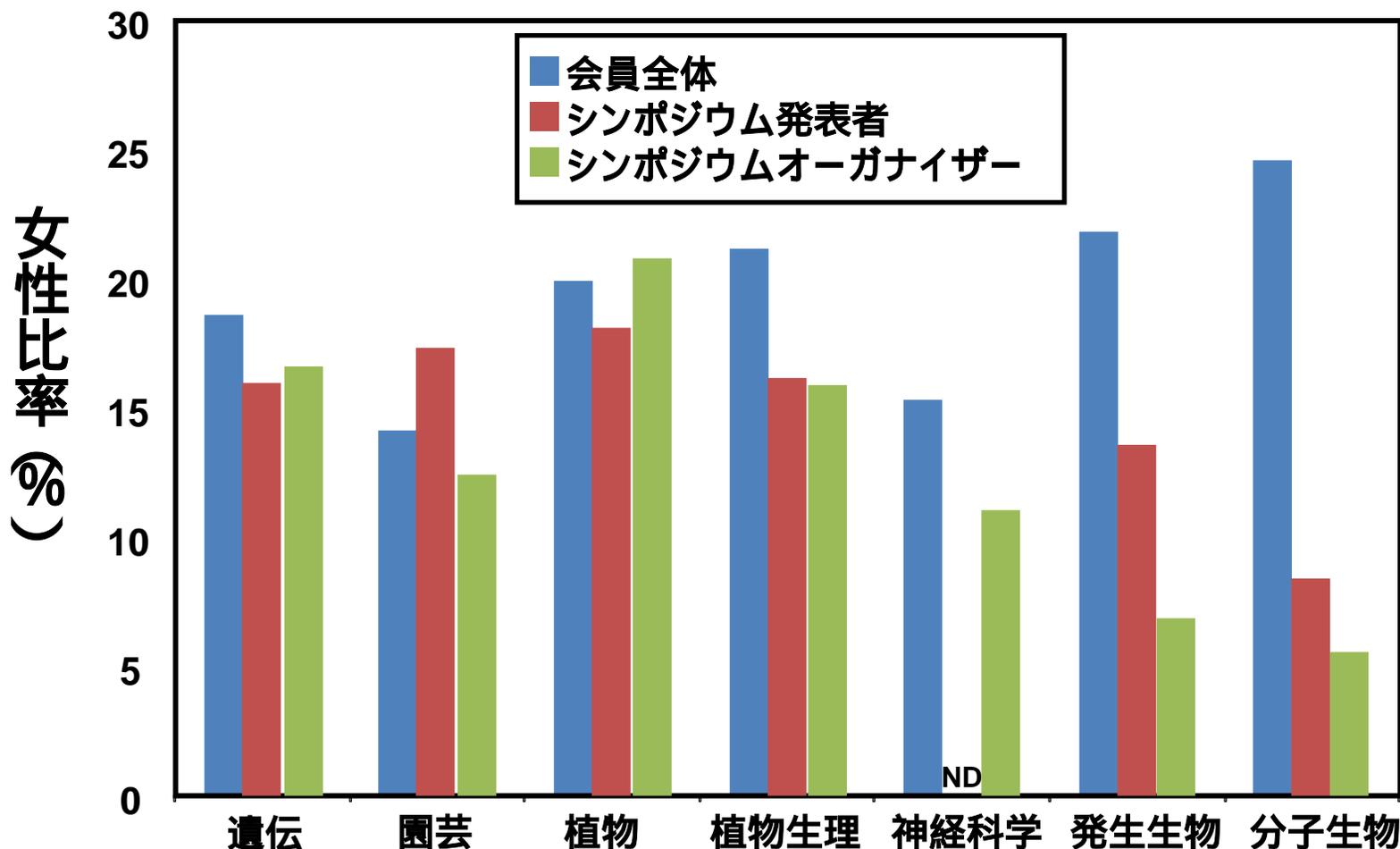
## 一般演題発表者



- 女性シンポジウムオーガナイザー
- 女性シンポジウム発表者
- 男性シンポジウムオーガナイザー
- 男性シンポジウム発表者

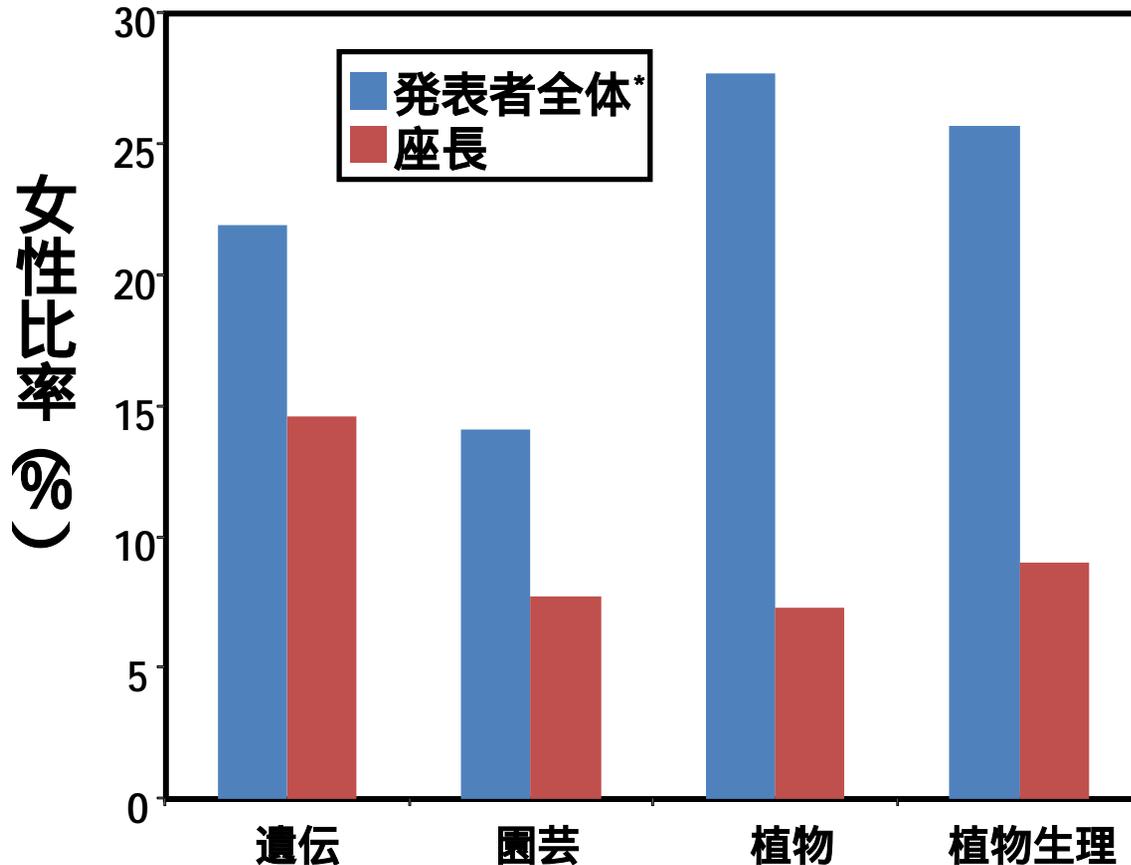
- 女性一般演題
- 男性一般演題

# 学会でのリーダーシップ活動における女性比率 学会間の比較



学会により、シンポジウム発表者・オーガナイザー等のリーダー的女性比率は異なる

# 学会発表における座長の女性比率



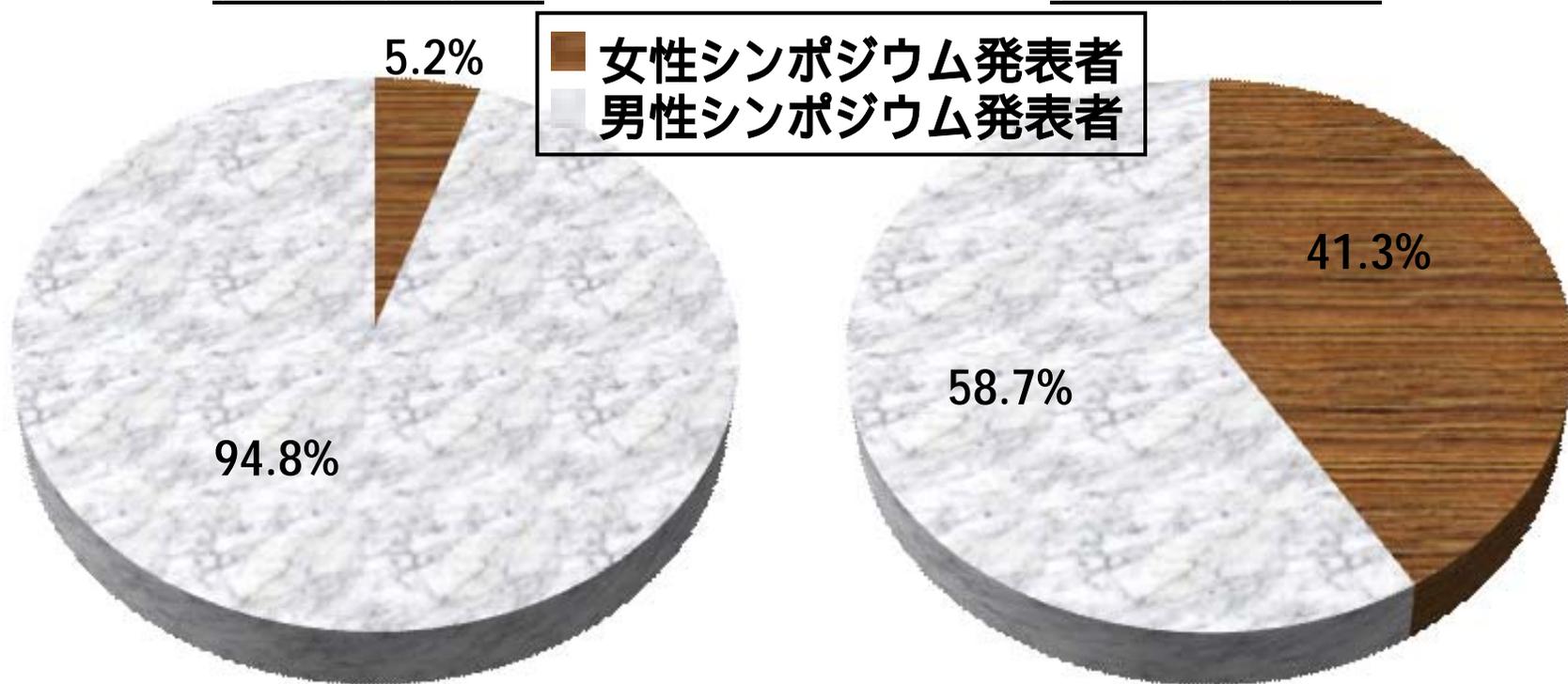
\* 園芸学会データは発表者全体ではなく会員全体の女性比率

シンポジウム発表者の女性比率が比較的高い学会においても  
座長の女性比率は低い

# 日本植物学会におけるオーガナイザー属性とシンポジウム発表者の女性比率の関係

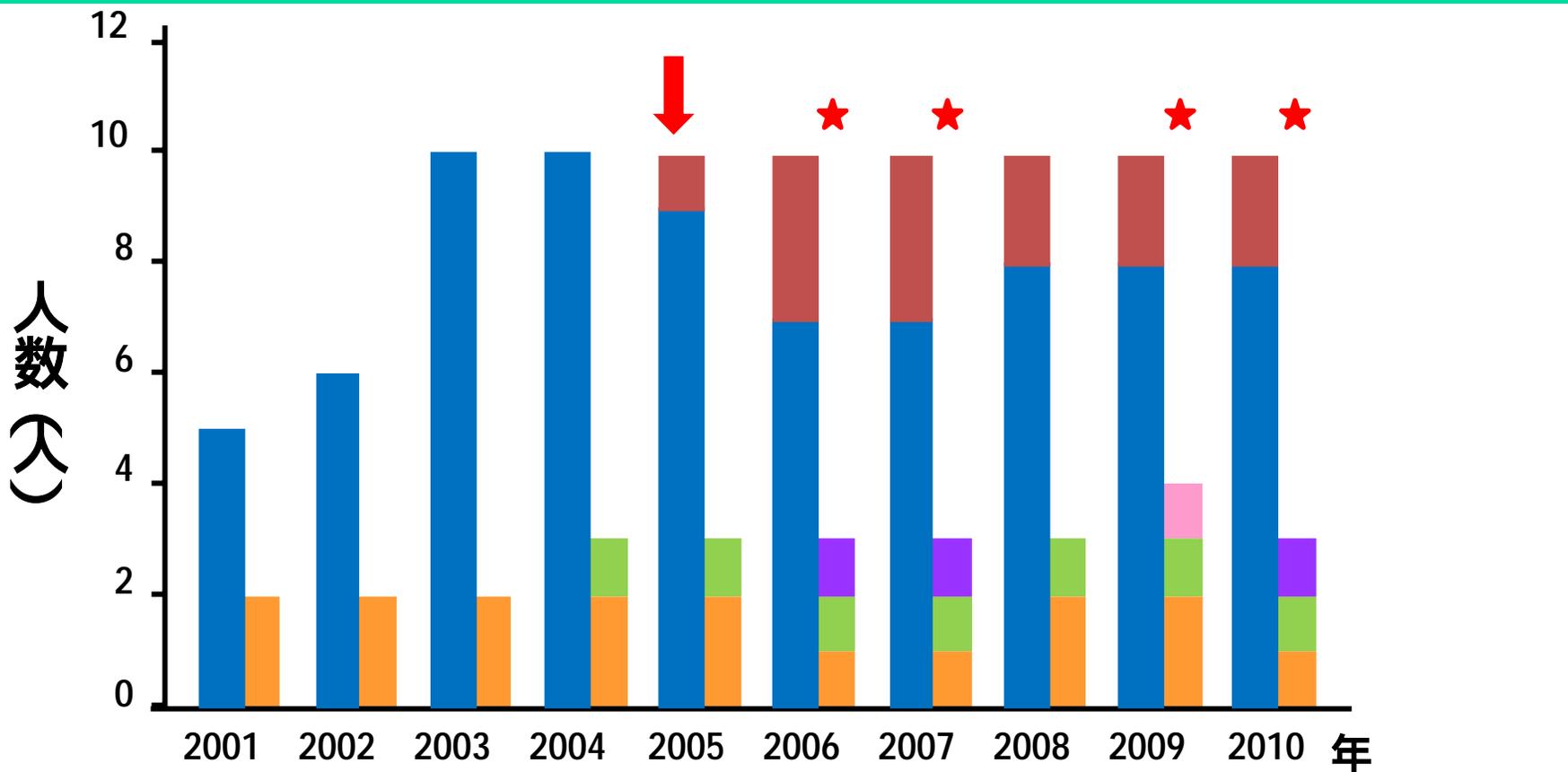
男性のみオーガナイザーのシンポジウム

女性入りオーガナイザーのシンポジウム



女性オーガナイザーがいると 女性シンポジウム発表者が選ばれやすい

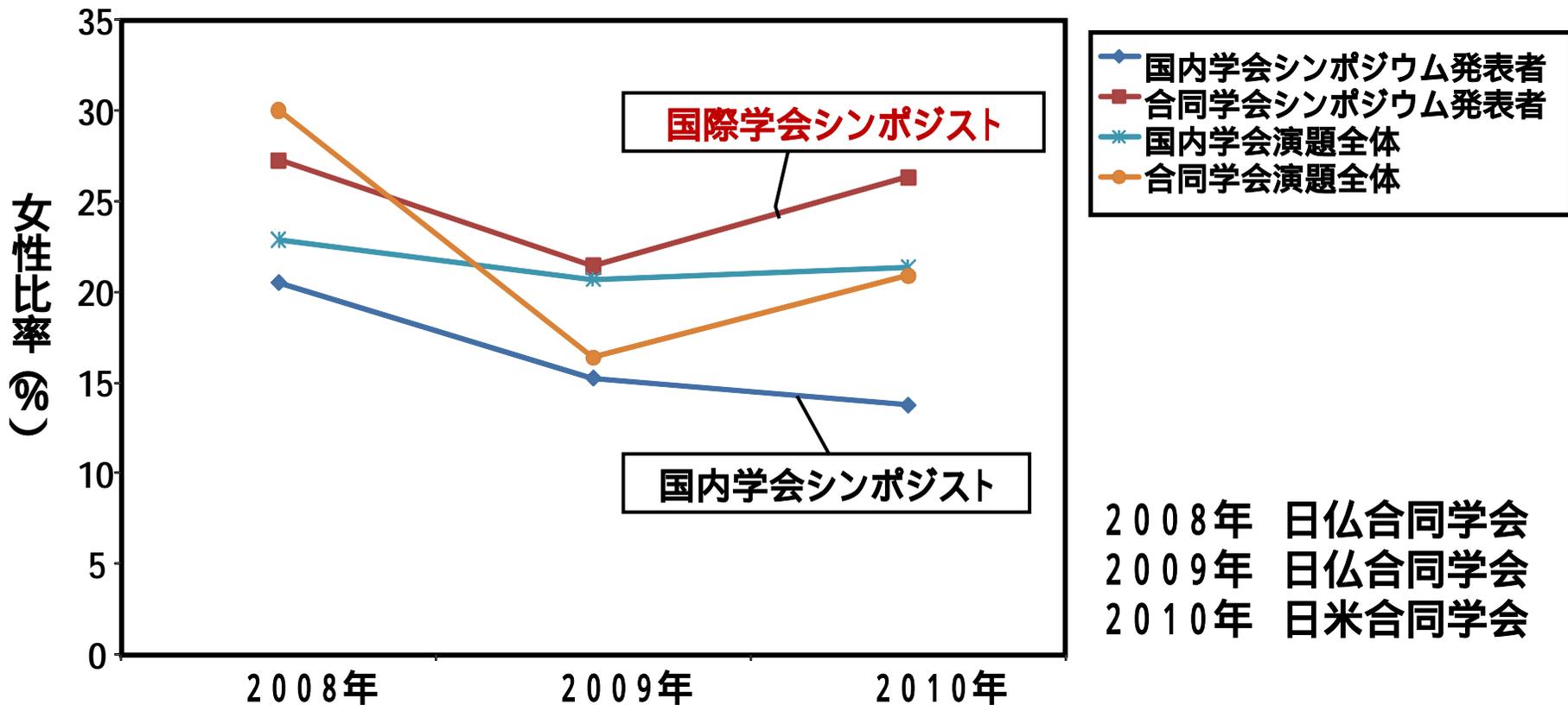
# 日本植物生理学会における学会賞・奨励賞 の女性受賞者数と審査員の女性比率



女性審査員の登場後、初めて女性受賞者が誕生した



# 発生生物学会における国際合同学会と国内学会シンポジウム発表者女性比率の比較



国際合同学会開催時における シンポジウム発表者女性比率は国内学会よりも高い

# 学会を含むリーダーシップ活動における機会均等 まとめ

- 女性が選ぶ側にいないと女性が選ばれにくいという無意識のバイアスがあると考えられる
- 女性のvisibilityを上げることが 女性リーダーの育成につながると考えられる



- 1) 主催者側に、より多くの女性を登場させる
- 2) 国際学会など、外からの目を意識させる
- 3) 無意識のバイアスがあることに気付き、意識改革のための学会企画等を行う

## 資料作成ならびに文責

本間美和子 (日本分子生物学会)

大坪久子 (日本分子生物学会)

本橋令子 (日本植物生理学会)

吉田聡子 (日本植物生理学会)